

資料3 日本十進分類法

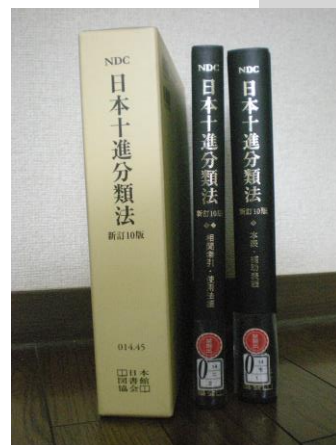
Nippon Decimal Classification, 略称NDC

日本十進分類法は森清^{もりきよし}（1906-1990）が、アメリカのデュウイ（Melvil Dewey 1851-1931）によって創案された十進方式を参考にして考案した、標準的な分類方法です。戦後、学校図書館の発足に際して文部省（現文科省）が刊行した『学校図書館の手引き』でNDCが採用され、定着しました。日本図書館協会が改定を重ね、現在は2014年改定の新訂10版が使用されています。『1本表・補助表編』と『関連索引・使用法編』の2分冊です。（写真参照：各校購入しておくことになっています。）

NDCは、図書の奥付に書かれていて、現在は、TRC（図書流通センター）の指定した書誌情報によって、各書店がNDCのラベルを貼っています。

寄贈された図書やラベルがない図書の分類番号は司書教諭または、学校図書館指導員が決めます。

『1本表・補助表編』に記されている図書分類表は、0から9の第一次区分表〔類目標〕と、00から99で二桁に分けた第二次区分表〔綱目表〕と、000から999の三桁で分けた第三次区分〔要目表〕、さらに詳細に分けた細目表となっています。これらは、数字で表されているので「分類番号」と言われがちですが、正式には「分類記号」です。内容から分類記号を決める場合は『2関連索引・使用法編』を使用します。



日本十進分類法第10版

2014年日本図書館協会発行

日本十進分類法

- 0 類 総記
- 1 類 哲学・宗教
- 2 類 歴史・伝記・地理
- 3 類 社会
- 4 類 自然科学
- 5 類 技術・工業・家庭
- 6 類 産業・交通
- 7 類 芸術・体育
- 8 類 言葉
- 9 類 文学

小学生向けの表示

- 0 類 調べる本
- 1 類 心・考え方
- 2 類 歴史・地理・伝記
- 3 類 社会
- 4 類 算数・理科・いきもの
- 5 類 工業・家庭科・環境・のりもの
- 6 類 産業・通信
- 7 類 音楽・図工・体育・あそび
- 8 類 ことば・国語
- 9 類 ものがたり

* 低学年が好む分類はひらがなで書きます。

この分類は、4次区分(分目)、5次区分(厘目)、6次区分(毛目)まで分けられ、例えば 548.2 は電子計算機、548.23 は記憶装置、記憶媒体、548.232 は半導体記憶装置、のように分類されています。

9	1	3
きゅう・いち・さん		
↑	↑	↑
文学	日本	小説・物語

小学校・中学校は第3次区分までで分類しています。中学校では、一部の図書に第4次区分の分類記号がついている場合もあります。

いずれにしても、ラベルは統一して、きまりを継続することが重要です。絵のラベルや、シールの色で分けようとする、決めた担当者はわかっている、転勤するとわからなくなってしまいがちです。特に、公立の学校は、転勤が頻繁にあるので、誰もが共通して理解できるNDCに準拠するほうが望ましいです。絵ラベルを使用する際は、独自で作らず、継続することを考えて図書用品販売専門のものを使用します。

以下まとめて「請求記号」(小学校の例)

913	分類記号
あ	図書記号(著者記号)
2	巻冊記号(複本記号)

☆図書記号は著者頭文字を使用

日本十進分類法の表示

分類の一覧表は、学校図書館内に掲示し、各棚の上にも表示します。「4類の表示の書架に4〇〇の分類記号をつけた図書を配置する」ということを教えます。

分類は、NDCを基本にしますが、児童・生徒の利用方法を考え、変更することもできます。例えば、犬は、動物学的にとらえると 489.56 に分類され、家畜としてとらえると 645.6 になります。つまり、犬の種類や生態について書いてあれば4類、ペットとしての犬の飼い方であれば6類になります。しかし、蔵書数もさほどない学校図書館では、両方合わせて4類に置くほうが児童には使いやすいです。また、小学校では、ラベルには「489」と書きます。



柏第七小学校

NDCの仕組み……『コピーしてつかえる学校図書館活用資料集』市川市学校図書館教育研究部会著より

